

第4回三次市観光戦略策定検討委員会 議事要旨

■日 時	令和6年3月22日10時00分～11時30分
■場 所	三次市役所本館6階602会議室

■名簿(敬称略)		
策定委員	所属・役職	出欠の有無
富川 久美子	広島修道大学商学部 教授	○
永江 博之	(一社)三次観光推進機構 専務理事	○
八谷 尚幸	三次商工会議所 専務理事	—
中宗 久之	三次広域商工会 事務局長	○
玉垣 雅史	(一社)広島県観光連盟 インバウンド事業部長	○
平田 真一	有限会社平田観光農園 取締役社長	○
實兼 利光	備北交通株式会社 取締役統括本部長	○
池田 美咲	三次グランドホテル 支配人	○
角佛 里英	みよしアントレーヌ	○
岡田 アントニールイス	株式会社なちゅ bio 取締役	○
野々原 ゆか	三次観光アンバサダー	○
事務局		
中廣 晋	三次市産業振興部長	
押谷 水砂(司会)	三次市産業振興部商工観光課長	
小山 知秀	三次市産業振興部商工観光課観光振興係長	
重廣 真理子	三次市産業振興部商工観光課観光振興係主任	

■議事次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 資料説明
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

■議事要旨

1. 開会

○事務局より開会宣言

2. 委員長あいさつ

- ・第3回三次市観光戦略策定検討委員会では、委員の意見を戦略に反映させパブリックコメントを行い、市民に広く意見をいただいた。また、関係者から、最新の観光客に関する調査結果が明らかになったことから、事務局が修正案を示した。
- ・本日は、修正した観光戦略案を確認、議論いただき、三次市の観光産業発展のために、忌憚のない意

見をいただきたい。

3. 資料説明

○観光戦略案について …事務局が説明

- ・第2次観光戦略（案）について説明
- ・2/15～3/6 に実施したパブリックコメントの結果の報告と市の対応について説明した。

4. 意見交換

（委員長）

- ・目次が見にくい。第4章は、どういう施策とするかをしっかり記載したほうがよく、具体的に「観光戦略の5つの施策」などと記載したほうがよい。
- ・第1次観光戦略の検証と現状を踏まえて施策に至ったことから、第2章と第3章を一緒にした方がよい。
- ・「目的と位置づけ」の箇所については、コロナが強調しすぎているので修正してほしい。全体的に同様の修正が必要である。
- ・「図1-1 計画期間」は文字が小さく見にくい。「図1-2 本計画の位置づけ」には、「1.4 関係する計画の整理」で観光白書がとりあげられているので、記載する。「2.3 第1次戦略の概要と主な取組」の中に「各戦略」と表記されているが、「5つの戦略」と記載すべきである。「組織的なオンライン販売は実施できていません」は、記載の検討をするのがよい。
- ・グラフは平成25年からとしているものがあるので、平成25年からの解説とすべきではないか。また、令和5年へ更新すること。以降も同様である。「インバウンドの動向」のデータは最新まで更新したほうがよい。入込率の表現で本市は上昇率、庄原は入込率で表現しているので読みにくい。「図2-9 本市の入込客数～」では、入込客、入込率が区別つきにくいので入込客を棒グラフにするなど、表現を変えたほうがよい。「外国人の観光客」に対する用語が統一されていないので、用語の統一すること。
- ・「本市観光の主な課題」は、現状のみでなく、観光戦略の検証、観光の動向も受けて課題を整理したという表現するほうがよい。MICEがないなど、課題が漏れているところがある。
- ・各取組の関連イメージは適切なところに移動、読みやすい表示をする。施策の表現が課題と同じ表現となっており、見づらいので、施策が目立つように、色調を変えるなど工夫をする。以降も同様。また、図表で表現している個所で、どの施策もすべての課題が当てはまると思う。
- ・HITとの連携という記載があるので、市観光と連携できるようにすべきである。
- ・看板について、どこか取組に入れられないか。三次市の観光に係る看板が気になっている。観光に向かない看板と感じており、三次の自然を生かしたアウトドア系などのイメージであれば木で統一するなど、看板を整理し、SDGsの取組に近くなり、三次らしさが出せるのではないか。
- ・第5章のタイトルを検討すべきである。

（事務局）

- ・オンラインでの販売は取組例に対応する箇所がないので、削除を検討する。
- ・外国人観光客の用語の統一については、国や県で表現が異なっており、それぞれの引用資料に合わせ

て使用している。

(委員長)

- ・取組例が重要なポイントとなる。今後、記載されていない取組は優先順位が下がることになる。
- ・前は2次交通について議論もされていたが、書きぶりを検討したい。

(委員)

- ・2次交通の面では、移動サービスなどの言葉を入れてもらっている。広島や福山のことで記載するのか、バス、タクシー以外のものも含め記載するのかなど具体的に記載するとなると、実現性が高まるといえ、表現が難しいところであるのでこの程度でよいと感じる。

(委員)

- ・パブリックコメントにもあったが、三次に宿泊するならば「鵜飼」であり、施策②の中に入れられないか。「鵜飼」を中心に2次交通や食事を入れた商品ができれば、遠方からでも来訪するという意見もある。世界的なワイナリーがあるので、ワインも記載したい。

(委員)

- ・尾道ラーメンや、岡山スイーツには行列ができていますが、三次には唐麺、イチゴ、霧里ポーク、ワニなどがあり、これらを使った三次ならではの商品開発、三次ブランドに力を入れてもらいたい。行列ができる店ができればいい。食の魅力をもっと打ち出し、三次町では食べ歩きができるような取組ができるのではと考える。ワインを使った商品開発もされているが、販売先が限られており周知がされていない。
- ・飲食マップはあるが、観光客向けの企画があるとよい。

(委員)

- ・県も含めて周遊は重要である。「鵜飼」だけではもったいない。鵜飼だけではないが、これらを活用し、食などをセットにした商品の開発が必要である。個人旅行者が増えているので、OTA連携も忘れずに取り組んでもらうようにしてほしい。いいものがたくさんあるが県外の人には知らないものが多い。

(委員)

- ・「花火大会」は記載されていないが、来訪者も多く、日帰り客だけではなく、宿泊も期待でき、資源としては大きい。

(副委員長)

- ・DMOでは、花火大会などは市民イベントとして考えているため、観光イベントとして取り組んでいない。今まで花火大会での来訪調査を行っていなかったが、市外からの来訪客数の調査を次年度実施する予定である。

(委員長)

- ・施策①及び②に重要な具体的な観光資源として「鵜飼」を表記する。施策①に食のことは記載されているが、具体的な表現ではない。食を周知できるキャンペーンなどの展開もある。一過性のブームになるかもしれないが、きっかけづくりは大切である。
- ・ワインについては、ワインツーリズムなどで、施策②に入れることができると考える。「鵜飼」を活用した商品作りなどは、施策②でストーリー性を持った商品開発として記載でき、その情報発信については施策③でもSNSの活用などの記載ができるのではないかと。花火大会などの夜のイベントも地

域資源として施策②で夜間早朝観光（ナイトタイム・エコノミー）として含めてしまうことも考えられる。

○指標・目標値について

（副委員長）

- ・令和5年は140万人減だが、観光消費額が増となっている。この理由は、客単価が上がっていることにある。観光消費額を上げるためには、客単価を上げることが重要で、その要素として宿泊客や入込率の増加があると考えている。宿泊客を増やすと、日帰客の4～5倍くらいの消費が生まれる。
- ・パブリックコメントに入込率が標準的でないという意見があったが、入込率が高くなると観光消費額が増加するという相関が過去の例でわかる。入込率は、三次市68%、宮島98%、広島県77%となっており、広島県で下位から3番目である。入込率を上げる余地があると思う。
- ・令和5年度70億円の実績は、全国旅行支援の効果であると考えられ、延べ120万人が利用したことになっている。令和6年は、その動きがなくなるので、一旦、宿泊者数や観光消費額は下がると予測しているが、(P34)目標値とする観光消費額77億円に向けてあげていくことになる。
- ・宿泊プランなどで、宿泊者数の目標値18万人は達成できるのではないかと考えているが、それ以上はホテルが増えないと難しいのではないかと。
- ・鶴飼パックを利用した宿泊客は90人泊程度である。今後、宿泊を増やしていく努力は必要で、例えば、霧の海や鶴匠のバックヤード見学など、新たなプランを考えていく。

（委員）

- ・鶴飼による宿泊者数は40人泊程度で客は少ない。どのようにしたら宿泊客が増やせるのかを考えている。

（委員長）

- ・副委員長の説明によると、高い目標値を設定していることをあらためて感じた。
- ・ゴールデンルートから地方に及んでいないのか。ゴールデンルートは、外国人が周遊するルートで、日本人は東京、京都を周遊しないのではないかと。このことから当該部分を削除してもよい。

○検討会での感想

（委員）

- ・三次市の観光の流れの中で、自分が何をしたらよいか、しっかりと足元が見えた。

（委員）

- ・普段は本社が庄原にあり、三次の様子が分からなかったが、委員会に参加して、三次のことがいろいろと分かった。交通事業者として数値目標が達成できるように努力し、協力させてもらう。

（委員）

- ・地域おこし協力隊として三次に来て、現在は起業しているのだが、委員として委員会に参加して観光のことがよく分かった。今後自分が動くうえで、観光に携わる気構えができたことに感謝する。

（委員）

- ・観光アンバサダーとしてSNSを中心に発信してきたが、県外に行くことも多く、20～30歳代の方々の行列をよくみた。気軽に食べられるもの、食べ歩きができる場所である。また、SNS映えする場

所やものは、高くてもお金を払う傾向がある。

- ・三次でも、また行きたいと思うところがある。今後は、自分も一消費者として、ワインが好きなので三次の特産品であるワインを買いたい。

(委員)

- ・私自身、個人的な意見が多かったが、色々な人の意見を聞き、また、意見を聞いてもらえる場に入れたことがうれしく思う。三次市が戦略の策定や実施によってどのように変わっていくのが楽しみ。

(委員)

- ・このような計画を作られていることを体感することはほとんどなく、市の考えを知ることができたことは貴重な経験であった。三次は資源がないわけではなく、住んでいる人がもっと細かく魅力を知っていると思う。県立みよし公園の遊具などだけ行って帰られる方に、目的やお金を落とさない理由などを聞けたらよい。他の場所を知らないだけだと思う。
- ・おもてなしをする機会があるが、感謝の言葉をかけられる。三次の魅力は形になってないだけ、整っていないだけだと思う。

(委員)

- ・本戦略には課題がたくさん載っているが、県としてもたくさんの課題を抱えている。広島県は平和公園などが目立っているが、ほかにもたくさんある。魅力的なものを知ってもらい、行ってみようかなという気にさせ、予約してもらい、来てもらうといったところまで完結しないといけない。
- ・県内の周遊は重要で、三次市と連携を深めて、周遊客、国内外の集客を進めていきたい。

(委員)

- ・いろいろな意見が聞けて参考になった。本市には、様々な業種の方がおり、また開業したい方もいるので支援をしていきたい。

(副委員長)

- ・5年後までに観光消費額を7億円上積みしていかなければならない。今回、計画は完成するわけだが、DMOが実施を担うことになるので責任の重さを感じている。

(委員長)

- ・三次の観光を何とかしたいが、どうしていいかわからない中、自分の中で探っている状況だったが、委員の方々から委員長の役割にお礼をいただきうれしく思う。今年から広島県観光連盟の理事に就任したので、三次を押していきたい。

5. その他

(委員長)

- ・観光戦略案は、指摘事項などを修正し、3月中に市長へ提出したい。修正は委員長、事務局に一任をお願いしたい。

(産業振興部長)

- ・それぞれの立場で、ご意見、ご議論をいただき、本戦略に反映し取りまとめていただいたことに感謝する。実行に当たっては、みよしDMOが主体となって実施するが、観光関連事業者や市民の連携、協力が必要になってくる。

- ・委員には8月より長期にわたり協力頂いたことをあらためて感謝したい。目標達成にむけて、引き続き委員の皆様の連携，協力をお願いする。

6. 閉会

以上